

在校生・卒業生・保護者・教職員

進路通信 2016/10 後期

北海道釧路湖陵高等学校進路指導部

★特集 センター試験を考える（最終回）

前回の続きです。最終回は日本史と公民（政経・倫理・現社）についてです。前野先生と岩田先生のレポートから学んでいきましょう。

1 日本史 前野先生

【傾向】

- ・ここ数年、旧石器時代・縄文時代から出題されている。1970年代までの出題が多いが、過去に湾岸戦争（1990年代）が出題されたこともあるので、旧石器～1990年代初頭までは学習すべき。
- ・例年人物史の問題が出るが2016年はオリンピックであった。しかし、内容的には変化無し。
- ・政治・外交分野が全問題の50%超を占めているのも変化無し。文化史が多いと平均点が下がる傾向にある。2016年は文化史の問題が多かったが答えが分かりやすく正答率は高かった。

【時代・分野別】

- ・原始時代…写真・地図を確認するのはもちろん、言葉の意味を字面だけでなく理解すること。（例：「脱穀」を文字では覚えていて、何のことか分からない生徒が増えている）
- ・古代…史料・図版・知識を駆使して解く問題が出題されている。
- ・中世…対外関係史、社会経済史について理解することが必須。また都市については国内だけではなく、東アジアを含めて地図上で答えられるように。
- ・近世、近代ともに「狭い範囲での時代整序問題」の正答率が低い。未見史料が出る傾向があるが、それほどまでは難しくはない。
- ・現代…経済政策や条約締結の時代背景やその内容について理解すること。「世界の中の日本」を意識して学習する必要がある。

【対策】

- ・何よりもまず教科書を。史料についても教科書に掲載されているものを完璧にすること。その後、別冊のものに取りかかること。コラムやトピックス、扉の文章は日本史と世界史の関わりが現れる数少ない機会。理解を深めるのに役立ちます。教科書はクタクタになるまで使おう。
- ・リード文をしっかり読んで、解答の手がかりを探すこと。下線部だけではなく、その前後にヒントがある。史料問題は脚注にヒントがある。
- ・2文の正誤判定問題（X・Yの正誤の組合せ）は2016年に増加（5問から8問に）。この形式は勉強をしているかどうか判断できる問題です。新テストを踏まえて増やしていることも考えられる。このパターンが増えるかも知れない。
- ・知識だけではなく、文章と語句、図版・史料などを組み合わせた問題が増える可能性がある。「センターだから」と書く練習をおろそかにしないこと。書くことができれば、見た時に

思い出せます。

2 公民 岩田先生

「倫理」

(1) 今年のセンター試験の概要

- ① 難化により平均点下落（51.84点）で、二年続けて公民科で最低の平均点だった。全国でも100点満点がいなかった。
- ② 増加傾向にある組合せ問題が、今年も12問で全体の3分の1を占めた。

(2) 科目の特徴

① 「倫理」の学習内容は、[1] 人間の心理と青年期の特色 [2] 思想の源流 [3] 日本の思想 [4] 西洋近現代の思想 [5] 現代社会の課題に大別されるが、センター試験では[2]～[4]が得点差のポイントとなる。

(3) 受験科目としての「倫理」

① 思想や心理学、宗教学等に興味があり、「倫理」に意欲的に取り組む意思がある場合、受験科目として適している。

「政治・経済」

(1) 今年のセンター試験の概要

- ① 問題水準は大幅に易化し、平均点は昨年比5.18点UPの59.97点となった。近年ほとんど見られなかった、比較的簡単な空欄補充等の問題が出題された。年代順を問う問題や地図を用いた問題が姿を消した。（→来年は逆に要注意！）
- ② 組合せ問題が5問から12問に増加した。

(2) 科目の特徴

① 文字通り [1] 政治分野 [2] 経済分野に分かれ、センター試験ではそれぞれから出題されるが、近年は、多角的視点から捉えた融合問題も出題されている。

② 「国際関係」と「社会保障と労働問題」の点数差が開きやすい。

(3) 受験科目としての「政治・経済」

- ① 来年も易化傾向が続くかどうかは判断が難しい。
- ② 普段からニュースを見たり新聞を読んだりすることを通して、社会情勢に興味・関心を持つことが点数UPに繋がる。

「倫・政」

(1) 今年のセンター試験の概要

- ① 「倫理」の難化と「政経」の易化が相殺し合い、平均点は60.50点となった。正答率が80%を超える問題はすべて「政経」領域であった。「倫・政」の平均点が「倫理」の難易度に左右される傾向が強まる。
- ② 独自問題がなくなり、すべて「政経」・「倫理」からの流用問題であった。

(2) 科目の特徴

① 近年、大問は6問で、問題数も倫理分野・政経分野それぞれほぼ同数となっている。

(3) 受験科目としての「倫・政」

- ① 旧帝大等の難関大学を目指す場合、一般的に「倫・政」が必要である。
- ② 「倫・政」は「倫理」・「政経」両科目を網羅的に学習する必要があるため、その対策に早くから取り組む必要がある。

「現代社会」

(1) 今年のセンター試験の概要

- ①平均点は4.46点下落し、54.53点であった。
- ②経済分野が39点分から50点分に増加し、平均点を下げる要因の1つとなった。
- ③思想分野が2問出題され、平均点を下げる要因の一つとなった。

(2) 科目の特徴

- ①「現社」の環境・人口・エネルギー・文化等の出題内容は「地理」と重なる。
- ②「現社」の学習内容は、〔1〕現代社会における人間と文化〔2〕環境と人間生活〔3〕日本国憲法と民主主義〔4〕現代の経済と国民福祉〔5〕国際社会と人類の課題に分けられるが、センター試験では〔3〕～〔5〕の「政治・経済」分野の出題が大きなウエイトを占める。
- ③一般常識で解けるような難易度の低い問題が多くを占める。
きっちり勉強すれば自学自習でも80点を取ることが難しい教科でもある。

(3) 受験科目としての「現代社会」

- ①「現社」の取り組み開始が遅い生徒が多々見受けられるが、いかに早い時期から学習習慣を身に付けることができるかがポイントとなる教科である。

★「目標達成へまっしぐら」に進める子の秘密

～「決めたことは実現していく」～

「わが家には、高校生の息子がいます。高校で体育会系の部活に入り、激しい練習のせいか疲れきって帰り、勉強もせず寝てしまいます。そのせいか、テストの成績も学年でビリに近く、授業にもついていけない状況です。本人も諦めているのか、どうしてよいのかわからないのか、学校もつまらないと言っています。塾に通わせようかとか、できるところから始めたら？とアドバイスすることもあります。本人が勉強する気力がないという状況です。本人も本音では勉強ができるようになりたいと思っているようなので、何とかしてあげたいのですが、どう導いていけばよいかわかりません。ご指導いただけましたら幸いです。」

よくある保護者の質問でしょうね。部活動に入ることによって勉強ができなくなったというケースは、今も昔も変わりなく、たくさんあります。もちろん、本人にとってあまりにも拘束時間が長い、活動量が多いなど激しすぎる部活の場合、部活動を続けるのかどうかを検討する必要があるかもしれません。では部活をやめれば、勉強をするようになるかといえば、そうともいえません。もともと勉強する習慣ができていないので、部活をやめたところで勉強するようにはならない場合があるからです。

できるものなら勉強したいが、勉強する気力が出ないという場合、その理由はたくさんあるでしょう。上記の高校生は「やっても無駄ではないか」「今の自分には将来像が見えない」といったことが背景にあるような気がします。つまり、とりあえず勉強するといっても、成果が出るかわからないし、そのようなわからないことに村して努力することもはばかられるという感じでしょう。

今回は関東の進学塾の先生が話していた内容を基に考えてみましょう。

1 第一歩は「どうしたいのかを、決める」こと

第一歩は、はっきり「どうしたいのかを、決める」ことです。そして、「決めたことは、そのとおりに実現していく」ということです。

決めたことがそのとおりに実現するというのは、どんなこと？と思った子もいるでしょう。例えばこういうことです。

保育士になりたいと本気で決意した人が、誰かと話をしている、テレビから保育士という言葉が聞こえると耳を傾けるようになり、本屋に行けば保育士という言葉が目に入り、街を歩いていけば保育という言葉に、自動的に反応してしまう。本気で決めることによって、今まで全く反応しなかった景色の一部であった言葉に自然と反応し、五感で情報が入るようになるのです。これが自然と行動にもつながり、様々なチャンスや情報をさらにキャッチするようになります。こうした状態、循環になると、徐々に目標の実現へと近づいていく、決めた通りに物事が進んでいくということです。

ですから、自分がどうしたいのか、とにかく「はっきりと、本気でひとつのターゲットに絞る」ことが重要です。

漠然と決める→ダメ 何となく決める→ダメ いくつも決める→ダメ

湖陵生の場合は、それが大学受験校の設定でしょう。これは今の自分の学力をもとに考えるのではなく、「大学で何をしたいのか？」という視点で決めます。大学を調べ、そして自分のやりたいこと考え、それをどこで学ぶかを決定するのです。

2 目標を達成するまでのプラン作り → スケジュールをつくる

次にその目標を達成するまでのプランを作ります。

①ゴールまでの大雑把な計画を作る

②日々の時間割を作る

特に、部活動をやっている生徒の場合、時間が限られるので、学校の授業、学校の行き帰りの時間、すき間時間を使う必要があります。

③継続するための仕組みとして、計画進行表を誰かに見てもらう

湖陵生の場合、スケジュールをきっちりと作ることもできるし、漠然とですが、頭の中にパッとイメージすることもできます。しかし、「あれもこれも、どれもこれも、」とスケジュールを詰め込みすぎるのも湖陵生の特徴と言えます。継続できない、あるいは計画倒れで終わってしまう可能性があるんです。

さて、どうしましょう。ここで先生方を「利用する」のが手っ取り早いといえるのではないのでしょうか。やり方がわからなければ、継続できるようにするには、先生に尋ねればいいんです。一人で悶々と悩むより、先生方をいい意味で「使う」。よく湖陵生は「効率よく勉強したい」と言いますが、先生に相談するのは自分の勉強が「効率がよくなる」手段の一つと言えるのではないのでしょうか。

高校生が、勉強しない、勉強できないという状況で、無理やり勉強をやらせるというのは正しい方法とは思いません。また、整に行かせれば何とかなるというのも幻想に終わる可能性が高いです。勉強に対してネガティブイメージを強く持っており、今の自分に希望が持てない状況の中で勉強をしても水の泡になるからです。

「決めたことは、決めたとおりに進んでいくので、何を決めるかが大切である」というフレーズが何よりも大切になるのではないのでしょうか。

誰だって何かしらの才能が必ずあり、目標を達成させるだけのエネルギーがあります。まずはその「歯車」を回してみるのです。そしてそれがいつの間にか、その歯車が勢いよく回りはじめ、「目標達成へまっしぐら」に進める生徒になります。きっと！！